第71回『社会を明るくする運動』 推進委員会作文コンテスト表彰式



> つきった。 こやかな笑顔いっぱいの撮影となマスクを外して、緊張もほぐれ、にとなりました。記念写真では、一瞬ご家族に見守られながらの表彰式いささか緊張した空気のなか、

第 49

₹ 640

- 8157 和歌山市八番丁4

八番丁館3階

第 71

回「社会を明るくする運動

更生保護サポー

令和4年3月15日発行

発行責任者: 和歌山保護司会会長

編集:企画調整保護司

TEL: 073-460-9298 FAX: 073-425-1301

Email:

saposen_w@ares. eonet.ne.jp

H.P:

http://wahokai.sakura.ne .jp/saposen/













三年 丸山 清良和歌山大学教育学部附属小学校「信頼のかたち」

私は今まで学校で物を失くしてしまったで、いつも先生や友達の善意に助けられ、で、いつも先生や友達の善意に助けられ、が多く、落とし物を目にしても自分の持ちが多く、落とし物を目にしても自分の持ちが多く、落とし物を目にしても自分の持ちがなのかどうかすら即座に分からないこと、学校でいつも言われている。ように」と、学校でいつも言われている。 ことはない。私は今まで学

夏のある日、外掃除をしているお父さんの姿を見て気が付いた。「どうして掃除道具全部に、わざわざうちのお寺の名前を書いているの。」とが交がケツやひしゃく、お墓掃除に使うブラシなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所にたくさんなどを、境内の決められた場所に充った。でもお寺であり、ほうきやではないのと同じ理由なのかなあ、と切れば、学校での持ち物に名前を書かなく、お参りに来るだん家さんたちのおきのと同じ理由なのかなあいというない。 さんにたずねた。

「うーん、清良にはまだ想像しにくいことがもしれないけど、『取られないようにしたんや。だから名前を付けておくようにしたんいちいち名前なんが書かんかった。けど知らん間に色々なくなり出してしもたんや。ごんなふうに、『取られないようにすれた。

思ってもいなかった答えに、私は衝撃をしれない」ということを前提にお父さんは名前を書いているのだと思い、とても悲しかった。長年お寺に来てくれる人たちとの間にある信頼関係が壊れてしまうような気がして、私の目から涙がこぼれた。 そんな私を見て、お父さんが続けた。 そんな私を見て、お父さんが続けた。 そんな私を見て、お父さんが続けた。 「犯罪を『抑止』するってこと、清良は理解できるかな。」初めて聞く言葉だった。 れんやろ。」お父さんの説明を、私はすぐにれんやろ。」お父さんの説明を、私はすぐになっていなっていう気持ちになってくれるかもしたいなっていう悪い心が誰かに芽生えたとしても、寺の名前を書いてあることに気なっていう悪い心が誰かに芽生えたないなっていう悪い心が誰かに芽生えたなっている。」初めて聞く言葉だった。

私には三才年下のに勧められた。場に置き換えて考え められた。これであるように置き換えて考えてみるよう ですることができなかったが、)お父さん

しようと思っても、私の名前を目にしたらくことがある。例えば弟がその本に落書きない本などに、私は自分の名前を書いてお常茶飯事だ。時々、弟に勝手に触られたく話だが、おやつやおもちゃの取り合いは日私には三才年下の弟がいる。恥ずかしい ておくのだ。を込めて、わざと目立つ場所に名前を書いいたずらなんてしないはずだ、という期待

いたずらにしろ 犯罪にしろ、名前一つ

でその衝動を食い止めることができるかでその衝動を食い止めることが小さなみ込めたような気がした。決して、人を信頼していないわけじした。決して、人を信頼していないわけじした。決して、人を信頼しているであろう ニュースや新聞を読んでいると、犯罪のいくんだな、と、今回のやり取りの中で私とが犯罪を「抑止」することに結びついてとが犯罪を「抑止」することに結びついて善意を信じているからこそ、名前を書くこ

と気力に。星こストンでは、からかに多いつい出来心で、といった理由も意外に多いしているわけではなく、魔が差した、とか背景には必ずしも重大なきっかけが存在背景には必ずしも重大なきっかけが存在ニュースや新聞を読んでいると、犯罪の じゃないだろうか。に大きな事件を防ぐことにもつながるんに大きな事件を防ぐことにもつながるんを起こさせないようにすることが、結果的ちょっとした心のはずみから生じる犯罪 と気付く。罪に大小の差はないけれども、

和歌山県推進委員会(小学生の部・中学生の部)最優秀賞のご紹介

ろう。

名前を書くこと自体は、わずか数秒で済むような作業だ。しかし、この何気なく書いてくれれば、それは犯罪のない明るいと、私は会を築く第一歩になる。こんな日々のささいな行いの中にも、きっと社会を明るくする種が存在しているにちがいないと、私は信じている。 物事は、見方次第でその姿を変える。明るい光を当てれば明るい像になり、逆もまた同じである。この光の当て方を決めるのがと自覚し、まずは人を信頼する心をは私たち自身だ。多様な形をした社会をどがないがいない人間関係を作り上げていくことが大なのだと目覚し、まずは人を信頼する心をおれたち自身だ。多様な形をした社会を明るがかないとと、私は信じている。

二年 上野山 朋花 智辯学園和歌山中学校 倒新学園和歌山中学校 【全日本中学校長会会長賞(優秀賞)】

深ル 夜ル 0ル 時ル ルー。 警 がから気 電話がかかってき

まれました。

を表えてきる。 を表しているようと、普段置いてあるところか を私の家族だと思わせようと、偽名を使っ でがが大切に使ってきた自転車を勝手に を出いが、まさか自転車に乗っていたらしい。その人は、であれていた。。 ささんだん驚きとともに終りが調いてきた。 を目分がが起きている間に、家の外は、咄嗟に自分を ないがが、まさか自転車に乗っていたらしい。その人は、があった。。 さされていた。とに対して頭に血がのに私のを がった。その人は変通手とんど乗っていた自転車を流んだことを対して頭に血がの方に私のの方になってきた自転車を を日分がが起きている間に、家の外域に使ってきた自転車を を日かが表しれないと気付き、毎日に、その人は、一般にであるところが、という話は聞いていた。 を日かが表している間に、家の外域に関いていた自分を を日かがたことに対して頭に血がのだと思ったが、もとはほとんど乗っていた。 を日かがたことに対して頭に血がの方に私の目がであるとしている間に、家の人は、一般にはとんど乗っていたの人が、 を日かが、とに対して頭に血がの方に私の目から涙が出てきた。 を日かたのだが、自転車を勝手にしていたりかった。 そんなまる日を出していた自分を思いていたの方とはもやもやした。 を日かたの方に見たら、初め口に来たみに、自転車を勝手に関いているように、 を出しているように、見いてさとに、恐怖を関いていたのが出てきた。 をとがましているよび、本当に果が出てきた。 をといるよび、本当に果が出てきた。 をといるよび、本当に果たの人は自転車は戻った。 をといるが、といるのでととは、 なのは、その人は間に、ことに、恐怖を関いていた。 を思いるが、といるのでととは、本当に悪い人が、 を思いるのでととなった。 を思いるが、といるのが、といるのが、といるのがははをきちんともとののでは、 をとおとのが、といるのでははない。 をとおいるのが、といるのが、といるのが、といるのが、といるのが、とは、 ないるのが、といるのが、といるのは、 ないるのが、といるのは、 ないるのが、というに関いていたが、 ないるのが、というに関いていたが、 ないるとに、恐怖を関いていたのが、 とはに来たみたいな感情があった。 をとおとののでは、 でいるのでははない。 ないるのでははない。 ないるのではないるのではない。 ないるのでははない。

「こんなことしていいと思ってるのましいものもたくさんある。 かには、思わず目を背けたくなるような痛毎日のように目にするニュース。そのなてみた。

をしてしまった人の更生について考え

まくないことをしたと感じたから謝りにたいられていても、『ダメだよ!」た。頭ではわかっていても、『ダメだよ!」という心の叫びを越える何かが体を動かし、犯罪や非行をしてしまうのだと私は思さった。頭ではわかっていても、「ダメだよ!」と一方的に決めつけるのではなく、『悪いこと』をしてしまった理由や経緯も頭に入れたうえで、真剣にその人に向き合うべきではないだろうか。しかし、どんな理由があっ。申し訳ないことをしたと感じるから『犯罪者もろうとその人の罪は一生消えない。それは『罪』として認めなければならないと思いたがら謝りにはないだろうし、謝ることができる。謝ることができるし、謝ることができる。割ることをしたと感じるから書いたから謝りによくないことをしたと感じたから謝りによくないことをしたと感じたから謝りによくないことをしたと感じたから謝りによくないことをしたと思じたから謝りによっている。 いるだろうか。私の自転車を盗んだ人も、当にいいと思って犯罪に手を染める人がみんな口を揃えてそう言うが、果たして本ーこんなことしていいと思ってるのかな」

私たちは、彼らを受け入れることが必要 れない。でも、その人が心から反省し、更 生を望んでいると感じたなら、手を差し伸 べるべきだ。過去の過ちからその人を否定 して遠ざけ、孤独にすることもまた、『悪い して遠ざけ、孤独にすることもまた、『悪い 事』だと思う。 私たちは支え合って、協力し合って生き ているのだ。誰かが失敗したなら救わなければいけない、謝らなければいけない。よいことも ない、謝らなければいけない。よいことも あってこそのこの世界。だから そ何かを誤った人はみんなで力を合わ せて助け、『よいこと』を増やしていけたい。 もあって、協力し合って生き ない、謝らなければいけない。よいことも ない、謝らなければいけない。 まいこともあって、協力し合って生き ない、謝らなければいけない。 まいこともあって、協力し合って生き ない、おいこと』を増やしていけたな を で、それは明るい社会につながると思う。



新春互礼会

新春を迎えた1月6日御用始めもすみ、和歌山保護観察 所所長室において和歌山保護司会会長をはじめとする三 役、県連事務局長の6名が所長・企画調整課長を交え、互 いに新年を寿ぐ挨拶をし、のち、新しい年に向かっての更 生保護関係者の活動について抱負を語りあう機会をいた だきました。

その中で、最近話題に上るのが対象者一人に保護司を複数にて指導・助言する「複数担当制」をより良いものにするための方法や在り方、また、令和4年4月には「少年法」が改正されることから、これらのことについての研修の場を設定していただけるよう要望しました。その後、観察所内各部署にも新年のご挨拶をし、和やかに新年を寿ぐ会はお開きとなりました。





今年もよろしくね~

しそまるの全開!金曜日

1月14日「しそまるの全開!金曜日」に 和歌山保護司会小西会長と得津センター長の2名で出演しました。作文コンテスト優 秀作品の朗読後、コメントを求められ「犯 罪の抑止力」「犯罪者の更生について」をし そまるさんの軽妙な話術に誘われて思いつ くままにお喋りさせていただきました。

小西会長の「今回の県下応募数6806

通りの子どもさん達が考えた『社会を明るくする運動』がある」との言葉に一作品も見逃すことのないよう来年の作文コンテストもしっかりと審査させていただこうと思った次第です。

1月21日は奥田観察所長が出演され社明の概略や作文コンテストについての目的、意義等をお話しされていました。





w b s 和歌山放送 毎週金曜日 13時~

作文参加賞

コロナ禍で応募数も懸念されましたが、各小学校・ 中学校からはたくさんの素晴らしい作文の応募があ りました。

その参加賞品等は、従来は郵便で学校宛に送らせて もらっていましたが、「直接持参してお礼を申し上げ たい」との声もあって、今年は応募していただいた各 学校に、保護司が直接持参して、学校との連携を深め ながら、来年度もまた、たくさんの応募をしてくださ るように依頼しました。



ら お 知 世

3年度版作成用エクセル・ワード・一太郎の ています(短期保護観察は従来通り)。今和

《保護観察経過報告書について》

保護観察経過報告書」の書式が変更され

CDをサポートセンターで用意しています。

必要な方はお問い合わせ下さい。

サポートセンター

1460-9298

【ホームページ開設】

和歌山保護司会のホームペー

//wahokai,sakura,ne.jp/saposen/同ホームページにはインスタグラム(写真投稿 サイト)へのリンクもしています。ホームよりのリンク先として法務省・全保連・端正会 和歌山市・その他更生保護関係先にもリンクしています。

第1期地域別定例研修

状況により中止とします。

* なお、懇親会については諸般の事情

令和4年度和歌山保護司会定例総会

場所 時日

アバローム紀の国 令和4年5月12日

余

東支部 令和4年4月21日 $\widehat{\mathbf{x}}$

令和4年4月26 \Box 义

令和4年4月22 \Box 金

令和4年4月26 \Box 义

詳細は各支部の案内等でご確認くだ

願いします。出て他支部の地域別研修に参加をお席できない方は、事前に支部長に申し所属支部の研修日に都合がつかず出

15

時30分となります。

ご利用時間は、平日の10

予約をお願いします。 希望の方はご希望の日時をサポー において、対象者との面接をご利用 トセンターにお問い合わせの上、ご 更生保護サポートセンター和歌山 トセンター

時から

います。

訃 報

中谷 平 北 晃 壽也 彦 様 様 (西支部 (南支部

ご生前のご功績を偲び、 謹んでお悔やみ申し上げます。

サポートセンター和歌山 句 品

偽偽と湛ふ紀の川初景色 悴む手息吹きかけて野良仕 風 初 お水取こぼす火の粉を掃く 強し

句作りに悩む寒夜のレモンティ 乗りのゆったりとゆくたま電車 初のフジコへミング聴きに 森幸子

か 1 な 4

得律 杉谷 材 壽美代 睦夫 咲子

大竹 乾 森 三千代 幸子 有美

初みくじ大吉枝へ

N

こつけ 寒風

ŋ 裡

よろこび揚

いがる孫 は

の凧

髮

0

根

0

迷立の帰路や

小西 乙井 健之 八重子

僧侶 事



坂本

獑

新任・OB・OG の皆さん

日時:毎月第3水曜日 10時~

対象: 更生保護関係者

編 後

記

見えない状況・・ コロナ禍になって2年。 行事日程もやむを得ず中止や変更となって いまだに終わりは

の表紙を「社明作文コンテスト」表彰式の模 一方、明るい話題『サポセン和歌山第49号』

者として絶賛と感銘を受けました。 様を掲載しました。 の思いに私たち更生保護活動に携わる関係 児童生徒たちの「犯罪のない明るい社会」

お世話になりますが、どうぞ さあ!皆さん本年も何かと Т

冝しくお願いします。

Н